

## 高齢者等外出支援事業について

質問（森 泰久議員） 高齢者等外出支援事業について伺います。

答弁（市長） 高齢者等外出支援事業については、一般の交通機関を利用することが困難な在宅の高齢者等に対し、移送用車両により自宅から医療機関までの通院に必要な交通の便を確保することにより、在宅での自立した生活を継続できるように支援するための事業であります。この事業の利用回数につきましては

では、週一回程度の通院を想定し、年間五十一往復分の利用券を交付しておりますが、人工透析患者等週複数回の通院を必要とする方につきましては、きめ細かく対応できるようにという趣旨で、昨年度規則を改正し、通院の状況に応じて利用回数をふやせるようにしたところでもあります。運行状況につきましても、今年度から一台増車し、大田原・湯津上地区に三台、黒羽地区に二台と分散して

配車されていることから、運行効率もよくなっており、利用者が予約をとりにくいという状況も大幅に改善されているということでもあります。また、今議会に条例改正を提案しておりますが、特に人工透析患者を念頭に置き、祝日等にもこの事業を利用できるようなしたいという趣旨で提案しているものであります。この事業は、利用希望も年々増加し、利用者の期待も大きな事業でありますので、今後とも経費節減を図りながら、利用者の利便性を考慮したきめ細かな運用を図ってまいりたいと考えております。



高齢者等外出支援事業の充実をはかる



改修が望まれる大田原小学校木造校舎

## 木造校舎の改修について

質問（相馬大藏議員） 大田原小学校木造校舎の改修について伺います。

答弁（市長） 大田原小学校の木造校舎は昭和十年に建設され、その後昭和三十五年の一部が鉄筋コンクリートづくりにて建てかえられております。また、管理棟は昭和三十六年に鉄筋コンクリートづくり平家建てとして建設され、その後昭和五十二年に二階部分の増築を行っております。これらの施設の、老朽化が進んでいることは、承知してお

ります。一方、市内小中学校の約31.4%に当たる十一校の校舎は、昭和二十年代から四十年代に建設され、さらに屋内体育館については、八校が三十年代から四十年代の就学児童生徒数の急増に対応してつくられたもので、老朽化が目立っており、多くの学校で改築の時期を迎えております。毎年全校を対象に営繕調査を行い、補修工事を実施してまいります。また、昭和五十六年以

※2  
した学校施設の耐震化については耐震診断を行い、必要な補強、改修工事を進めているところでもあります。児童生徒の安全確保を最優先課題ととらえ、改修工事に重点的に取り組んでいく一方、大きな財源を要する大規模改築につきましては、合併特例債を活用できる期限内に事業執行することも一つの選択でありますので、今後大田原市小中学校適正配置に関する検討の推移等も見きわめながら、その是非と対象校、時期等の検討をすることも必要かと考えております。

※2の用語解説は11ページ